

豊岡市

第2次多文化共生推進プラン



多様な人々が地域や職場の一員として活躍している社会をめざして

2026 ~ 2030

「多文化共生」の定義

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

～総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書（2006年3月）」から～

「外国人市民」の定義

本プランにおいて、「第2章 現状と課題」の「1 豊岡市の外国人市民の状況」で用いる統計上の「外国人市民」は、国籍が日本以外の方を指しています。

一方、第2章以外で用いる「外国人市民」は、国籍が日本であっても、外国にルーツを持ち、言葉、生活習慣や文化等が日本と異なる方々も包括しています。

目次

第1章 計画の策定

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 計画の位置づけ 1
- 3 計画期間 2

第2章 現状と課題

- 1 豊岡市の外国人市民の状況 3
- 2 多文化共生に関するアンケート調査 8
- 3 第1次多文化共生推進プランの取組みと課題 8

第3章 めざす姿と取組み方針

- 1 めざす姿 11
- 2 取組み方針 11

第4章 具体的な取組み

- 1 戦略体系図 13
- 2 ライフステージに沿った施策の実施 14
- 3 豊岡市多文化共生推進プランに基づく事業・指標 15

第5章 プランの推進に向けて

- 1 多文化共生推進主体の役割 19
- 2 関係機関等との連携・協働 20
- 3 市役所内での横断的な取組み 20

資料編

- 資料1 在留資格一覧表 22
- 資料2 第2次豊岡市多文化共生推進プラン策定の経過 23
- 資料3 豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会
構成員名簿 24
- 資料4 豊岡市多様性推進本部 多文化共生推進部会 庁内委員名簿 26
- 資料5 多文化共生に関するアンケート調査（神戸大学との共同調査） 27

第1章 計画の策定

1 計画策定の趣旨

本市は、障がいの有無、性別、年齢差、国籍のちがい、価値観・文化・習慣のちがいなど、多様な人々から成っています。このような多様な人々が、地域社会や地域経済の担い手として期待され、現に活躍する、「多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまちづくり」を進めています。



本市では2019年度から「外国人住民に関する調査研究」を実施しており、その結果も踏まえた多文化共生推進プランを2021年9月に策定しました。それから4年半が経過し、市の人口減少が著しい中、本市の外国籍市民は増加傾向（2025年12月末現在1,328人、5年で1.7倍）にあり、多文化共生施策を取り巻く環境は大きく変化しています。

外国人市民を貴重な人材、コミュニティの一員として受け入れて共生し、地域の活性化につなげていくために、引き続き多文化共生のまちづくりを目指して「第2次豊岡市多文化共生推進プラン」を策定します。

2 計画の位置づけ

「第2次豊岡市多文化共生推進プラン」は、豊岡市における多文化共生施策の指針となります。

本計画は、「豊岡市いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」の理念のもと、「豊岡市基本構想」を上位計画として、各施策を具体的に実施するための個別計画として策定します。

なお、「豊岡市地方創生総合戦略」の視点にも、外国人市民との共生推進を位置づけています。また、2025年に策定された「豊岡市多様性推進方針」の基本理念「命への共感に基づいて、だれもが多様なちがい（ダイバーシティ）を理解し、公平・公正（エクイティ）に扱われ、一体感を持って組織・社会に包摂（インクルージョン）されるまちづくり」の実現に向け、多文化共生の取組みを定め、推進していくものです。

3 計画期間

第2次計画の期間は、2026年度から2030年度までの5年間とします。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
基本構想											
市政経営方針											
地方創生 総合戦略											
多様性推進 方針											
多文化共生 推進プラン											

第2章 現状と課題

1 豊岡市の外国人市民の状況

(1) 外国人市民数・外国人比率

2025年12月末時点の外国人市民は1,328人で、市民全体（73,744人）の1.8%であり、人数・比率ともに増加傾向にあります。

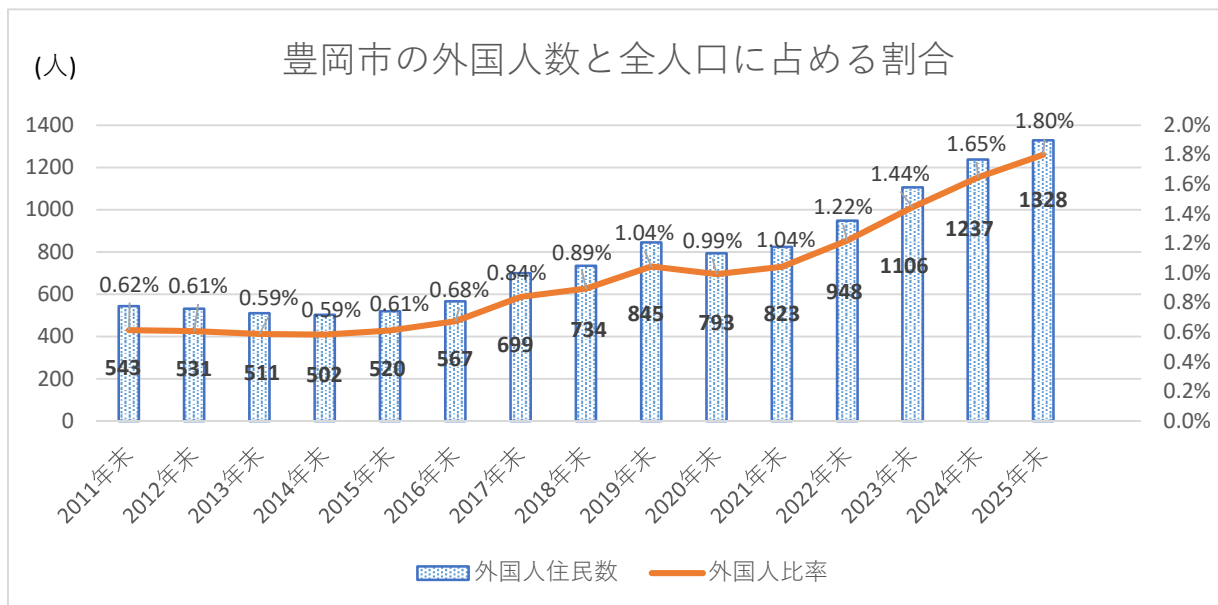


図1 外国人市民数・外国人比率の推移（住民基本台帳）

(2) 男女別年齢別

男女別にみると、男性が550人、女性が778人で女性が59%となっています。年齢別では20歳代が645人と最も多く、次に30歳代、40歳代が続いています。20歳代～40歳代が、全体の82%を占めています。

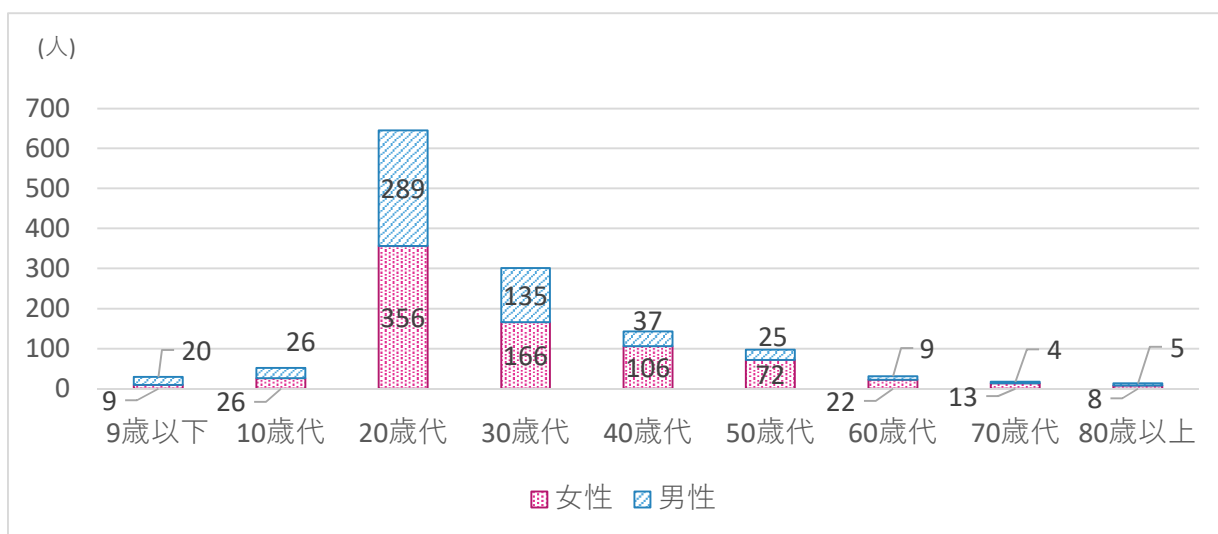
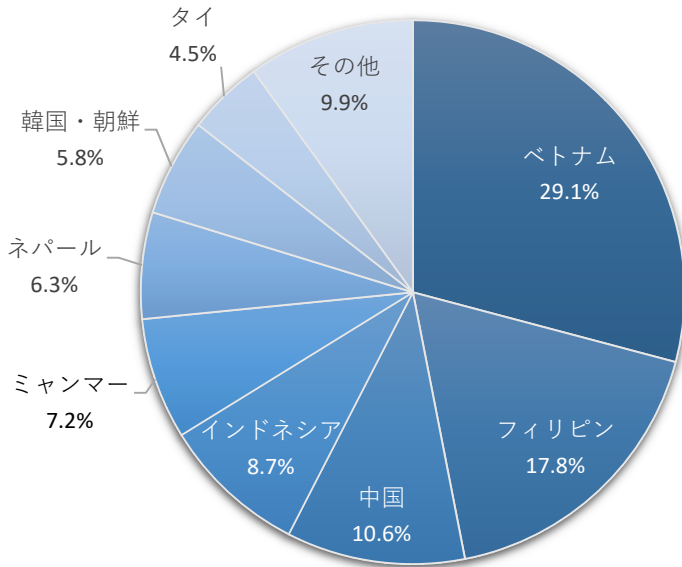


図2 男女別年齢別外国人市民数（住民基本台帳：2025年12月末）

(3) 国籍・地域別

31の国と地域出身の方が住んでいます。国籍・地域別にみると、ベトナム、フィリピン、中国の順で多く、最も多いベトナムは387人で、外国人市民数（1,328人）の29.1%を占めています（図3）。

国籍別に外国人市民数の推移をみると、中国及び韓国・朝鮮籍は近年緩やかに減少している一方で、ベトナム出身者の人数及び増加が顕著です（図4）。



国籍	2025年12月末人数
ベトナム	387
フィリピン	236
中国	141
インドネシア	115
ミャンマー	96
ネパール	84
韓国・朝鮮	77
タイ	60
その他	132

図3 外国人市民の国籍（住民基本台帳：2025年12月末）

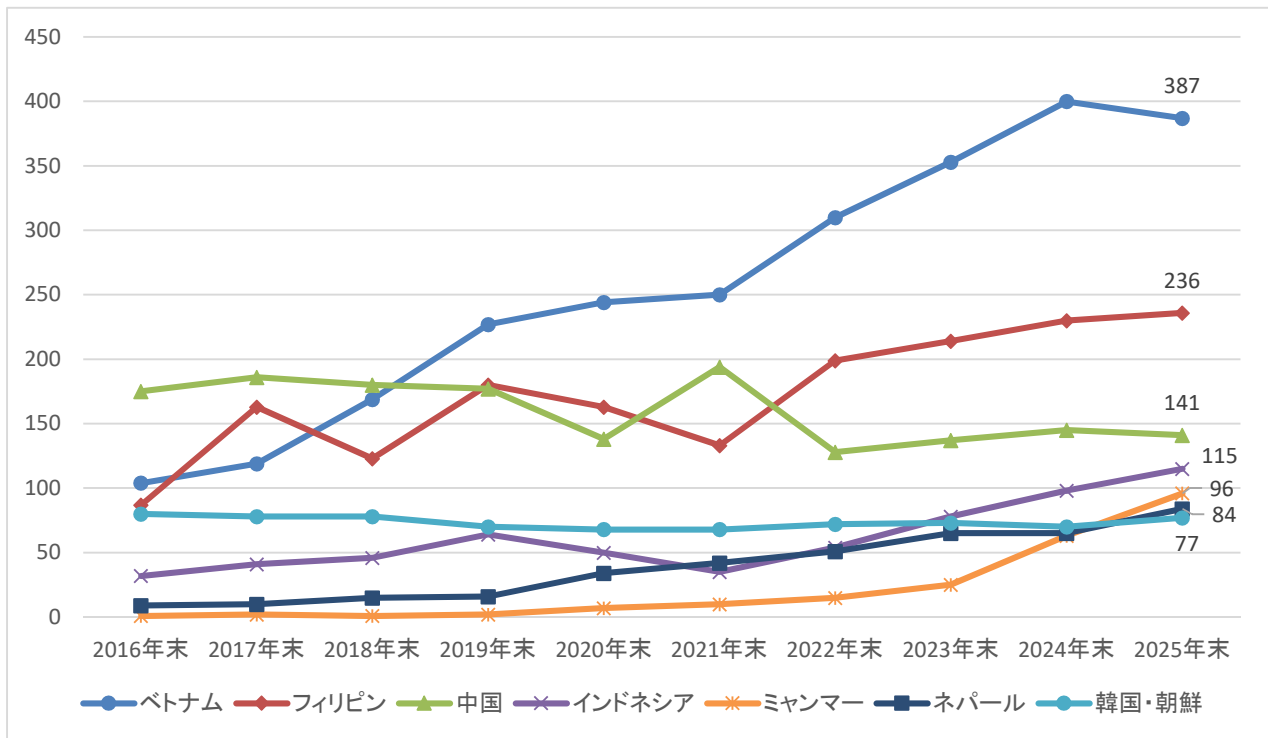


図4 外国人市民数上位7か国の推移（住民基本台帳） ※各年12月末現在

(4) 在留資格別

在留資格別では、技能実習が29.6%と多く、次いで特定技能1号、永住者、技術・人文知識・国際業務が続いています（図5）。

2020年との比較では、特定技能1号、技能実習、技術・人文知識・国際業務、永住者が増加しています（表1）。

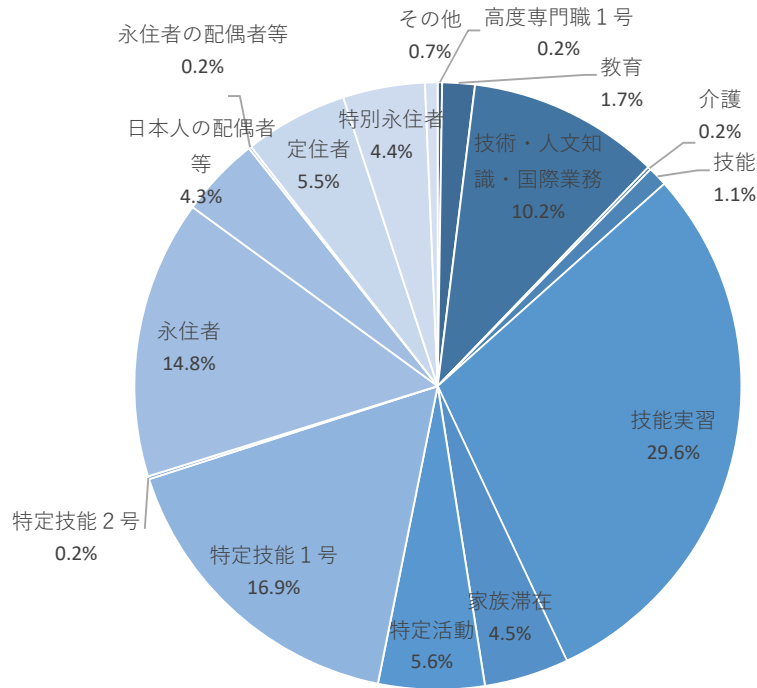


図5 外国人市民の在留資格（住民基本台帳：2025年12月末）

在留資格	2020年12月末人数	2025年12月末人数	増減
高度専門職1号	0	3	3
教育	14	23	9
技術・人文知識・国際業務	71	136	65
介護	0	2	2
技能	8	14	6
技能実習	289	393	104
家族滞在	29	60	31
特定活動	52	75	23
特定技能1号	2	224	222
特定技能2号	0	2	2
永住者	147	197	50
日本人の配偶者等	57	57	0
永住者の配偶者等	2	2	0
定住者	57	73	16
特別永住者	59	58	-1
その他	6	9	3
合計	793	1328	535

表1 在留資格の比較

(5) 市内の居住状況

外国人市民の市内の居住状況をみると、地域別では外国人市民の4割以上が豊岡地域に住んでいますが、地域別の外国人比率は、城崎（9.26%）、但東（2.28%）が多い状況です（図6）。

地区別でみると、城崎、五荘、日高、豊岡の順で多くなっています（図7）。

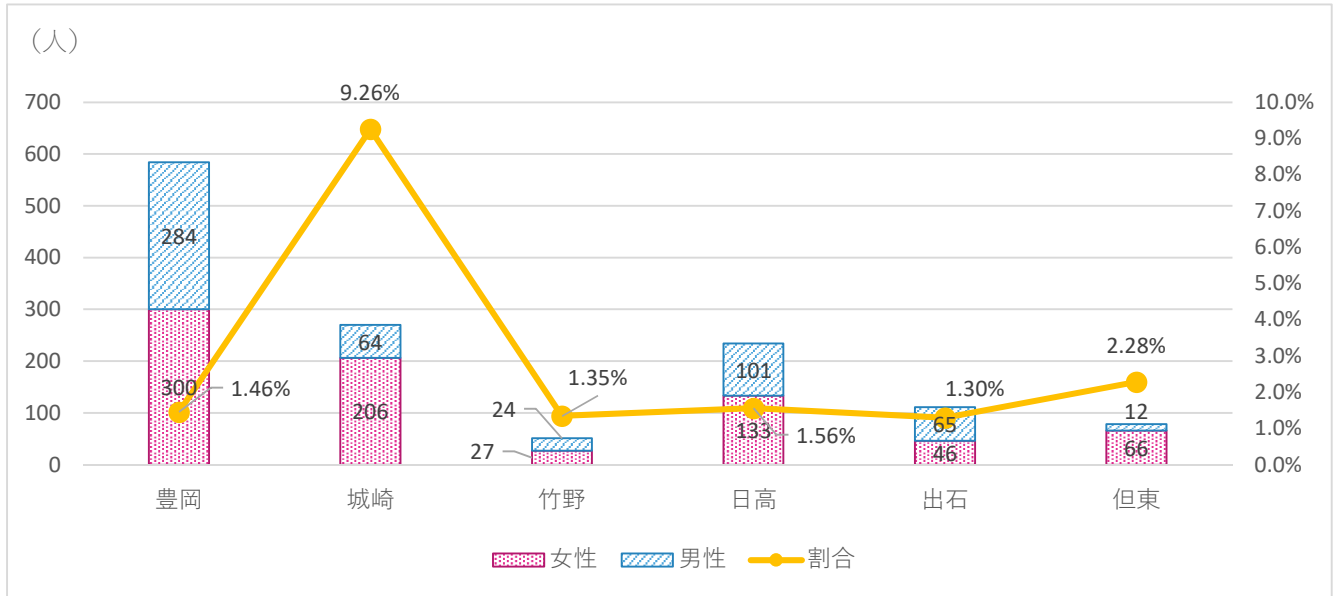


図6 地域別外国人市民数（住民基本台帳：2025年12月末）

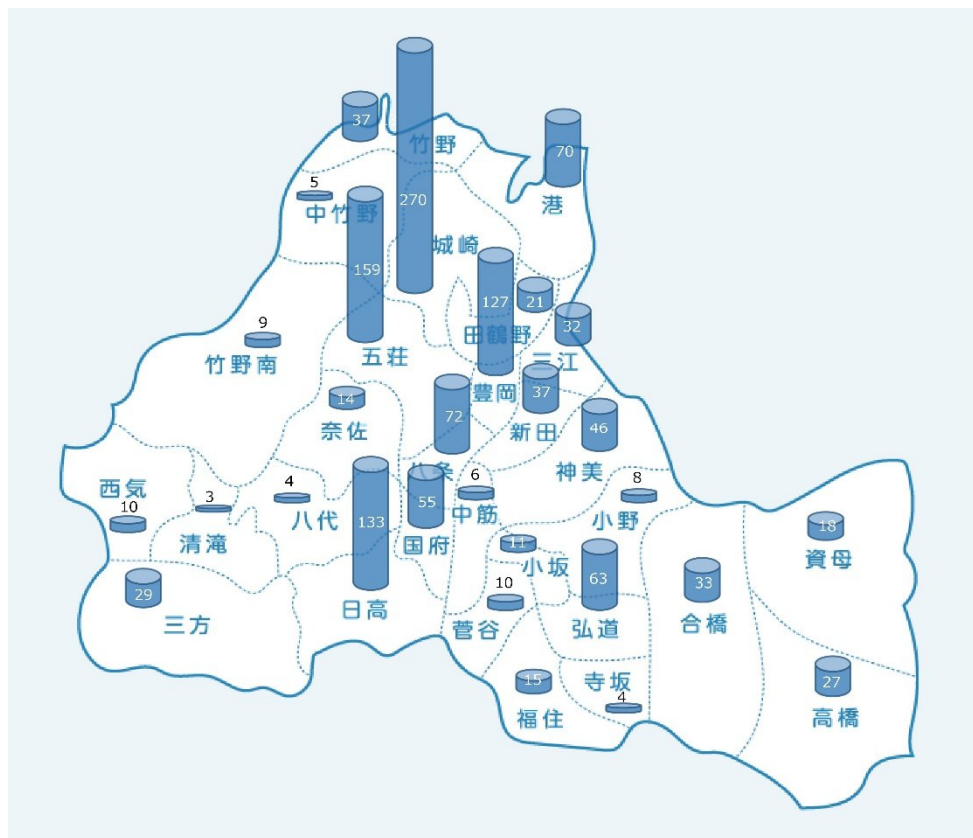


図7 地区別外国人市民数（住民基本台帳：2025年12月末）

(6) 外国にルーツを持つ子ども

外国にルーツを持つ子どもとは、親の両方あるいは一方が海外出身か外国籍である子どもです。日本国籍と外国籍を合わせると 179人で、同世代人口の 1.7%にあたります。

	就学前	小学生	中学生	16-18歳	合計
日本国籍	39人	50人	22人	19人	130人
外国籍	20人	12人	2人	15人	49人
計	59人	62人	24人	34人	179人

《日本国籍の子ども》

- 親の国籍：フィリピン 47人、中国 24人、ベトナム 19人 など
- 親の在留資格：永住者・日本人の配偶者等

《外国籍の子ども》

- 本人の国籍：フィリピン 17人、ネパール 8人、中国 6人 など
 - 本人の在留資格：家族滞在 20人、定住者 16人、永住者 10人など
- ※住民基本台帳：2025年7月末

2 多文化共生に関するアンケート調査

2025年4月から6月にかけて、アンケート調査を実施しました。外国人市民と日本人市民は郵送による調査票配付、事業所へは豊岡商工会議所や豊岡市商工会を通じて配付しました。

	配布数	回収数	回収率
外国人市民	18歳以上の外国籍市民全員 1,176人	280	23.8%
日本人市民	18歳以上の日本国籍市民から無作為抽出の3,000人	1,236	41.2%
事業所	2,679	886	33.1%

調査結果の概要は、資料編5（P27）に掲載しています。

3 第1次多文化共生推進プランの取組みと課題

(1) コミュニケーション支援

【取組み】

NPO法人等民間の外国人支援団体が実施する日本語教室、受講者の日常生活相談受付等について、市が補助を行っています。

市役所では2023年度に外国人相談窓口を設置し、窓口での通訳業務等を行うとともに、タブレットを用いた多言語映像通訳や、多言語音声翻訳アプリを導入し、外国人市民に対応しています。

また、市の生活の基本事項をまとめたリビングガイドの多言語版（やさしい日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、タガログ語、ベトナム語、タイ語）や、やさしい日本語と英語を併記した防災ハンドブックを発行し、転入者や日本語教室の学習者等に配付しています。豊岡市への転入者に対しては、日本語教室受講のきっかけとなるよう、無料で受講できるチケットも配付しています。

【課題】

近年、本市で働く方、出産・子育てをする方、学齢期で来られる子ども等多様なニーズを持った人々が増えています。出産・子育て・教育・福祉・雇用等様々な相談に対応する通訳者・相談員の人材育成、外国人相談窓口の充実、支援団体との連携が必要です。

また、外国人支援団体による日本語教室の実施回数も10年前から2.2倍の1,846回、生活相談の受付件数も14倍に増加しており、日本語教室の学習支援者・ボランティアの不足、高齢化への対応が喫緊の課題です。

(2) 生活支援

【取組み】

母子保健分野では、外国語・日本語併記の母子手帳の交付、乳幼児健康診査アンケートの外国語版(英語・中国語・タガログ語・ベトナム語・タイ語の5か国語)を作成しています。出産、子育て等においては、言葉の壁や文化のちがいによるコミュニケーションの難しさがありますが、翻訳アプリの利用や書類の多言語対応などにより、状況に応じた対応を行っています。

また、教育分野では、多文化共生サポーターを入国後1年6か月間、必要に応じて県と市が小中学校に派遣しています。

医療分野では、119番通報および外国人のいる救急現場での活動時等において、電話通訳センターを介した三者間同時通訳での対応、スマートフォンを使用した多言語音声翻訳アプリを城崎分署救急隊に配備し、救急対応しています。外国人対応シートによる救急対応もを行っています。

災害時の対応として、「一般社団法人豊岡市国際交流協会」「NPO法人にほんご豊岡あいうえお」と市が「災害時における市内の外国人への情報伝達に関する覚書」をそれぞれ締結し、市が提供した避難情報等をそれぞれが関係する市内の外国人へ伝えています。

【課題】

教育分野では、外国にルーツを持つ子どもの支援について、日本語教育の充実や母語教育、母文化を知ることが必要です。

豊岡で生活するうえで課題となる交通手段や就労についても、困りごとを専門機関につなぐ仕組みや窓口を検討していく必要があります。

災害時における外国人支援体制の整備も課題となっています。

(3) 意識啓発と地域づくり

【取組み】

「にほんご豊岡あいうえお」と市の共催で多文化共生セミナーを開催しています。「豊岡市国際交流協会」が主催するインターナショナルデーは、多くの外国人と日本人の交流の場となっています。外国人市民同士が気軽に交流でき、防災のことや日本の行事、文化について学ぶ多文化交流サロンにも取り組んでいます。

また、豊岡市国際交流協会、にほんご豊岡あいうえおでは、広報誌やSNS等でそれぞれが実施する日本語教室やイベント等の周知を行っています。生活や健康に関する相談窓口も担っています。

【課題】

交流や居場所づくりを目的に様々な事業を実施していますが、情報を得られていない外国人市民が多いことが課題です。生活情報や防災情報など得る機会を増やすためにも、お互い顔見知りになる、声を掛け合うなどして地域とのつながりを持つことが重要で、さらに、外国人市民が能力を発揮できる環境の整備、外国人市民支援ネットワークの構築等が課題となっています。



多文化交流サロン

第3章 めざす姿と取組み方針

1 めざす姿

「多様な人々が地域や職場の一員として活躍している」
長期目標を「多様な人々が地域や職場の一員として活躍している」と定め、「暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている」状態をめざします。

2 取組み方針

「暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている」状態を達成するためには、ライフステージに応じた情報提供・継続的な支援と、外国人市民も活躍できるような取組みが必要です。

(1) 外国人市民が円滑にコミュニケーションをとっている【コミュニケーション支援】

外国人市民の増加に加えて、結婚や母国からの家族の呼び寄せなどにより、世帯の構成も多様化していく傾向にあります。市役所窓口では、すでに多言語音声翻訳アプリを活用してそれぞれの言語に対応したり、やさしい日本語を使用したりしていますが、相談内容は、出産や保育、教育、医療、離婚などますます多様化、複雑化していくことが想定されますので、外国人支援コーディネーターなどの資格をもった相談者で対応していく必要があります。

さらに、外国人支援団体と共に日本語及び日本文化を学ぶ機会の充実を進め、ボランティアも含めた学習支援者の育成・活用に努めます。また、日本語を学習する機会を充実させるために、オンラインでの学習方法についても検討していきます。

(2) 外国人市民が安全・安心に暮らしている【生活支援】

小中学校、保育園等へ通う子どもも増えてきています。来日後の子どもへの日本語教育の充実を図るとともに、外国にルーツを持つ子どものアイデンティティが確立するように、母語・継承語（親の母語）を知る機会を増やし、教育等を実施します。また日本の子どもたちへの多文化理解教育として、外国人支援団体と共に小中学校への出前授業を実施し、多様な価値観に触れる機会を作っていきます。

外国人相談窓口の役割として、就学前施設、小中学校からの多文化共生に関する相談を受けられるように周知していきます。また、就労支援、住宅、運転免許、介護といった生活に必要な制度が利用できるように、サポート体制を整えていきます。

さいがいじ がいこくじんしみん じょうほうでんたつとう かだい さいがい
災害時には外国人市民への情報伝達等が課題となっているため、災害
じ がいこくじんしえんたいせい せいびとう けんとう へいじょうじ ぼうさいちしき しゅうち
時の外国人支援体制の整備等を検討するとともに、平常時から防災知識の周知
ひなんくねんどう さんかどう うなが
や避難訓練等へ参加等を促していきます。

しゅうろう はたら きやすいかんきょう ととの はたら かがい かん しょくば
就労については、働きやすい環境を整え、働きがいを感じられる職場と
なりよう、じぎょうしょとう れんけい はか
なるよう、事業所等との連携を図ります。

(3) がいこくじんしみん ちいきかつどう さんかく いしきけいはつ ちいき 外国人市民が地域活動に参画している【意識啓発と地域づくり】

がいこくじんしみん ちいきしゃかい いちいん しゅだいてき かか
外国人市民が地域社会の一員として主体的に関わっていけるよう、まずは
がいこくじんしみん にほんじんしみん たが せんざい ぶんか せいかつしゅうかん みと あ
外国人市民と日本人市民がお互いの存在、文化や生活習慣のちがいを認め合う
ことが重要です。じゅうよう ちいき たぶんかきょうせい すいしん じんざい じゅうみんどうし こうりゅう
地域において多文化共生を推進する人材、住民同士が交流
できる場所、ボランティア活動や余暇活動ができる環境、外国人市民の主体的
な活動や能力を發揮できるような機会について、せんもんか じょげん う
な活動や能力を發揮できるような機会について、専門家の助言を受けながら、
ちいき いっしょ けんとう すず
地域も一緒になって検討を進めていきます。



小学校への出前授業

だい しょう ぐたいてき とりく
第4章 具体的な取組み

1 戦略体系図

ちようきちゆう 長期目標	たよう ひとひと ちいき しょくば いちいん かつやく 多様な人々が地域や職場の一員として活躍している
せんりやくちくてき 戦略目的	くらしやすいと感じているがいこくじんしみんがふ 暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている
しゅようしゅだん 主要手段01	がいこくじんしみん えんかつ 外国人市民が円滑にコミュニケーションをとっている 【コミュニケーション支援 ^{しえん} 】
01-01	ぎょうせいじょうほう せいかつじょうほう つた 行政情報・生活情報が伝わっている
01-02	がいこくじんしみん そうだん 外国人市民の相談をワンストップで受ける体制がとれている
01-03	にほんご まな きかい ぶん 日本語を学ぶ機会が増えている
しゅようしゅだん 主要手段02	がいこくじんしみん あんぜん あんしん く 外国人市民が安全・安心に暮らしている 【生活支援 ^{せいかつしえん} 】
02-01	がいこく ルーツを持つ子どもへのきょういく きかい ほしょう 外国にルーツを持つ子どもへの教育の機会が保障されている
02-02	あんしん しゅっさん こそだ 安心して出産、子育てができています
02-03	あんしん いりょう かいご ふくし う 安心して医療・介護、福祉サービスを受けている
02-04	はたら かんきょう ととの はたら かん ひと ぶん 働きやすい環境が整い、働きがいを感じる人が増えている
02-05	いどうしゅだん かくほ 移動手段が確保されている
02-06	じゅうたく かくほ 住宅が確保されている
02-07	さいがいとう そな 災害等への備えができています
しゅようしゅだん 主要手段03	がいこくじんしみん ちいきかつどう さんかく 外国人市民が地域活動に参画している 【意識啓発と地域づくり ^{いしきけいはつ ちいき} 】
03-01	たが ぶんか せいかつしゅうかん みと あ お互いの文化、生活習慣のちがいを認め合っている
03-02	きがる こうりゅう いばしょ きかい ぶん 気軽に交流できる居場所や機会が増えている
03-03	ちいき ちく じゅうみん 地域、地区住民とつながりができています
03-04	がいこくじんしみん しゅたいてき かつどう 外国人市民が主体的に活動している
03-05	たぶんかきょうせい すいしん じんざい そだ 多文化共生を推進する人材が育っている
03-06	こようじぎょうしよどうし 雇用事業所同士がつながっている

2 ライフステージに沿った施策の実施

乳幼児期 概ね5歳まで	子ども期 概ね6～14歳	青年期 概ね15～20代前半	成人期 概ね20代後半～64歳	老年期 概ね65歳以上
<p>母子保健事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶外国語の母子手帳交付 ▶乳幼児健診等での通訳等多言語対応 	<p>子どもの教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶入学説明会への通訳派遣 ▶多文化共生サポーターの充実 ▶多文化共生教育の出前授業 ▶学校から家庭へのスムーズな情報共有 ▶就学前、中途入学、進学時等の説明体制強化 ▶義務教育以降の若者へのサポート 			<p>高齢化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶外国人高齢者の見守り強化 ▶多言語で介護支援を受けられる環境づくり
<p>子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶保育園・幼稚園等での多言語対応 ▶育児中の親が触れ合う場の提供 		<p>労働・居住環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶職場での日本語学習支援 ▶事業所支援（日本語教育、住居の紹介等） ▶事業所と支援団体、事業所同士の連携 		
<p>就業・起業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ハローワーク等での仕事の相談充実 ▶外国人の起業サポート ▶Uターン者のサポート 				
<p>防災対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶災害時における外国人支援体制の検討 ▶災害情報・防災情報の伝達 ▶防災知識を学ぶ機会の充実 ▶平常時からの防災啓発 ▶自主防災組織加入促進 				
<p>医療体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶消防本部三者間同時通訳サービス、救急多言語翻訳アプリの周知 ▶医療機関での多言語化の充実 				
<p>コミュニケーション支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ワンストップ相談窓口の拡充 ▶日本語学習機会の充実 ▶書類の多言語化、わかりやすい表示（やさしい日本語含む）の推進 				
<p>多文化共生の意識啓発と地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶広報等による外国人市民、外国文化・共生モデル地区の紹介 ▶交流事業等の開催 ▶地域の避難訓練等への外国人市民の参加促進 等 				

3 豊岡市多文化共生推進プランに基づく事業・指標

ちようきもくひよう 長期目標	たよう ひとひと ちいき しょくば いちいん かつやく 多様な人々が地域や職場の一員として活躍している	
せんりやくもくてき 戦略目的	く 暮らしやすいと感じている がいこくじんしみん ふ 暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている	
し ひよう 指標	きじゆんち 基準値	もくひようち 目標値
く 暮らしやすいと感じている外国人市民の割合	77.3% (2025年度)	85% (2030年度)
がいこくせきしみん ねんていじゆうりつ 外国籍市民*の5年定住率 *国籍が日本以外の市民	34.3% (2025年度)	45.0% (2030年度)

しゆようしゆだん 主要手段 01	がいこくじんしみん えんかつ 外国人市民が円滑にコミュニケーションをとっている 【コミュニケーション支援】	
し ひよう 指標	きじゆんち 基準値	もくひようち 目標値
にほんごきょうしつ さんかにんすう 日本語教室への参加人数	189人 (2024年度)	230人 (2030年度)

くたいてきしゆだん 具体的手段	し ぎよう 事業	すいしんしゆだい 推進主体
01-01 ぎようせいじょうほう せいかつ 行政情報・生活 じょうほう つた 情報が伝わっている	しよるい たげんごか ひようじ 書類の多言語化、わかりやすい表示（やさしい にほんごふく すいしん 日本語含む）の推進	し がっこう 市、学校
	りびんぐガイド・ぼうさい 防災ハンドブックの内容充実、 かんいぼんさくせい 簡易版作成	し 市
	やさしいにほんご ころほう ぶんべつ かくしゆてつづ き等） やさしい日本語による広報（ごみの分別、各種手続 き等）	し 市
	やさしいにほんごきょうしつ かいさい ししよくいん しみんだいしやう やさしい日本語教室の開催（市職員、市民対象）	し 市
	たげんごえいせうつうやく たげんごおんせいほんやく 多言語映像通訳サービス、多言語音声翻訳アプリの かつよう 活用	し 市
	し じぎよう つつやくほけん 市の事業への通訳派遣	し 市
	がいこくじんこようじぎようしよ れんけい しやくしよない 外国人雇用事業所との連携（市役所内）	し 市
せいかつじょうほう 生活情報のネット・SNS配信	しえんだんたい し 支援団体、市	
01-02 がいこくじんしみん そうだん 外国人市民の相談 をワンストップで う たいせい 受ける体制がとれ ている	そうだんまどぐち かくしゆう ワンストップ相談窓口の拡充	し 市
	つうやくしよ そうだんいんとうじんざい ほくつ いくせい 通訳者、相談員等人材の発掘と育成	し しえんだんたい 市、支援団体
	てんにゆう しゆつ し 転入（出）時にワンストップですべての手続きを 済ませることができる体制（庁内連携）	し 市
せいかつ 生活オリエンテーションの実施	しえんだんたい し きぎよう 支援団体、市、企業	
01-03 にほんご まな きかい 日本語を学ぶ機会 が増えている	にほんごかくしゆうきかい じゆうじつ 日本語学習機会の充実	しえんだんたい し 支援団体、市
	にほんご きょうしつ どうにゆうけんどう 日本語オンライン教室の導入検討	し 市
	にほんごかくしゆう かくほ いくせい けんどう 日本語学習ボランティアの確保、育成を検討	しえんだんたい し 支援団体、市

しゅようしゅだん 主要手段 02	がいこくじんしみん あんぜん あんしん く 外国人市民が安全・安心に暮らしている		
			せいかつしえん 【生活支援】
し びょう 指 標	きじゅんち 基準値	もくひょうち 目標値	
ほうさいくねん さんか 防災訓練に参加している外国人市民の割合	22.6% (2025年度)	40% (2030年度)	
ぐたいてきしゅだん 具体的手段	し ぎょう 事 業	すいしんしゅたい 推進主体	
02-01 がいこく 外国にルーツを持 つ子どもへの教育 の機会が保障され ている	にゅうがくせつめいかいどう つうやくしげん 入学説明会等への通訳派遣	し	
	たぶんかきょうせい しゅうじつ 多文化共生サポーターの充実	し	
	らいにちこ にほんごきょういく しゅうじつ 来日後の日本語教育の充実	し、がっこう	
	がっこう かてい じょうほうきょうゆう 学校から家庭へのスムーズな情報共有	し、がっこう	
	ぼこ けいしやご おや ぼこ し きかい きょういく じっし 母語・継承語（親の母語）を知る機会、教育の実施	し、しえんだんたい	
	しやうちゅうがっこう たぶんかきょうせいきょういくでまえじゅぎょう 小中学校への多文化共生教育出前授業	し、がっこう、 しえんだんたい 支援団体	
	しゅうがくまえ ちゅうとにゅうがく しんがくしじょう せつめいたいせいきょうか 就学前、中途入学、進学時等の説明体制強化 きむきょういくいこう わかもの 義務教育以降の若者へのサポート がっこう えん そうだんまどぐち 学校・園のための相談窓口	し、がっこう 学校、支援団体 し	
02-02 あんしん しゅっさん こ 安心して出産、子 育てができています	がいこくご ほしてちやうこうふ 外国語の母子手帳交付	し	
	にゅうようじけんしんどう たげんごたいおつ 乳幼児健診等での通訳等多言語対応	し	
	ひやういん たげんごたいおつ にんぶけんしん しゅっさん ひやうき とき 病院での多言語対応（妊婦健診、出産、病気の時）	いりやうきかん 医療機関	
	ほいくえん ようちえん じんてい えんどう たげんごたいおつ 保育園・幼稚園・認定こども園等での多言語対応 がいこくじんむ にほんりやうきやうじつかいさい こどもようなど 外国人向けの日本語教室開催（子ども用など） いくじちゅう おやこ ふ あ ほ ていきやう 育児中の親子が触れ合う場の提供	し ちいき しえんだんたい 地域、支援団体 地域、市	
02-03 あんしん いりやう 安心して医療・ 介護、福祉サービ スを受けています	しやうほうほんふさんしゃかんだうじつうやく きゅうきゅうたげんご 消防本部三者間同時通訳サービス、救急多言語 ほんやく しゅうち 翻訳アプリの周知	し	
	いりやうきかん たげんごか しゅうじつ 医療機関の多言語化の充実	いりやうきかん 医療機関	
	つういんそうげいしえんけんどう 通院送迎支援検討	し	
	がいこくじんこうれいしゃ みまも きやうか 外国人高齢者の見守り強化 たげんご かいご ふくし う かんきやう 多言語で介護、福祉サービスを受けられる環境づ くり	ちいき 地域 し	
02-04 はたら きんきやう 働きやすい環境 が整い、働きが いを感じる人が増 えている	しよくば にほんごがくしゅうしえん 職場での日本語学習支援	きぎやう 企業	
	しよくば せいかつしえんでまえこうざ 職場での生活支援出前講座	し、しえんだんたい 市、支援団体	
	じぎやうしよしえん にほんごきょういく じゅうきよ しやうかいどう 事業所支援（日本語教育、住居の紹介等）	し、しえんだんたい 市、支援団体	
	ハローワーク等での仕事の相談充実 がいこくじん きぎやう 外国人の起業サポート UIターンのサポート	ハロ-ワーク し し	

02-05 いどうしゆだん かくほ 移動手段が確保さ れている	こうきょうこうつうきかんの の か あんない たげんごか 公共交通機関の乗り換え案内（多言語化、ICT化） の検討	し こうつうきかかん 市、交通機関
	うんでんめんきよしゆとく がいにくめんきよまりか しょうほうていきょう 運転免許取得・外国免許切替えの情報提供	し 市
02-06 じゅうたく かくほ 住宅が確保されて いる	す しえん じょうほうていきょう 住まいの支援・情報提供	し 市
02-07 さいがいとう そな 災害等への備えが できている	さいがいじ がいにくじんしえんたいせい けんとう 災害時における外国人支援体制の検討	し 市
	さいがいじょうほう ぼうさいじょうほう だんたつ 災害情報、防災情報の伝達	し 市
	ぼうさいちしき まな きかい じゅうじつ ひなんくんれんとう さんか 防災知識を学ぶ機会の充実、避難訓練等への参加 そくしん 促進	し ちいき 市、地域
	がいこくじんしみん じしゅぼうさいそしきかにゆうそくしん 外国人市民の自主防災組織加入促進	し ちいき 市、地域

しゅうしゆだん 主要手段 03	がいこくじんしみん ちいきかつどう さんかく 外国人市民が地域活動に参画している	
	いしきけいはつ ちいき 【意識啓発と地域づくり】	
し ひょう 指 標	きじゅんち 基準値	もくひょうち 目標値
がいこくじんしみん じち かいかにゆうりつ 外国人市民の自治会加入率	20.0% (2025年度)	40% (2030年度)
がいこくじんしみん ちいき ぎょうじ さんかく ぎょうせい 外国人市民が地域の行事に参画している行政 くおよ ちいき 区及び地域コミュニティの数	3地区 (2024年度)	15地区 (2030年度)

ぐたいてきしゆだん 具体的手段	し ぎょう 事 業	すいしんしゆたい 推進主体
03-01 たが ぶんか せい お互いの文化、生 かつしゅうかん 活習慣のちがいを みと あ 認め合っている	がいこくじんしみん ぞんざい がいにくぶんか しょうかい しこうほう てまえ 外国人市民の存在や外国文化の紹介（市広報・出前 こうざとう 講座等）	し しえんだんたい 市、支援団体
	がいこくじんしみん おし がいにくりょうりきょうしつ かいさい 外国人市民が教える外国料理教室の開催	ちいき しえんだんたい 地域、支援団体
	がいこくご とうしょ えほん よ 外国語の図書・絵本が読めるコーナーの整備	し しえんだんたい 市、支援団体
	がいこくご ほんしakai かいさい 外国語のお話会の開催	し しえんだんたい 市、支援団体
	ちいき ことさいりかいきょうしつ かいさい 地域での国際理解教室の開催	ちいき しえんだんたい 地域、支援団体
03-02 きがる こうりゅう 気軽に交流できる いばしょ きかい ふ 居場所や機会が増 えている	たぶんかこうりゅう じっし にほん ぶんか とよおか ぶんか 多文化交 流サロンの実施（日本の文化、豊岡の文化 を学ぶ機会）	し しえんだんたい 市、支援団体
	かいさい インターナショナルフェスティバル開催	しえんだんたい 支援団体
	げいじゆつぶんかかんこうせんもんしよくだいがく れんけい 芸術文化観光専門 職 大学との連携	だいがく し 大学、市
がいこくじんしみん がくせい とう こうりゅうじぎょう 外国人市民と学生ボランティア等との交 流事業	しえんだんたい 支援団体 だいがく し 大学、市	
きがる あつ そうだん いばしょ 気軽に集まれて相談できる居場所づくり	しえんだんたい ちいき 支援団体、地域	

03-03 ちいき ちくじゅうみん 地域、地区住民と つながりができて いる	がいこくじんこようじぎょうしょ ちいき こうりゅうじぎょう 外国人雇用事業所と地域との交流事業	きぎょう ちいき 企業、地域
	ちいきぎょうじ さんかそくしん 地域行事への参加促進	ちいき 地域
	ちいき がいこくじんしみん こうりゅうじれい しょうかい 地域における外国人市民との交流事例の紹介・ 広報	し 市
	ちいき たぶんかこうりゅう しく けんどう 地域への多文化交流の仕組みづくりの検討（モデ ル地域での実施検討）	し しえんだんたい 市、支援団体
	ひなんくんれんどう さんかそくしん ちょうぶく 避難訓練等への参加促進（重複）	し ちいき 市、地域
がいこくじんしみん じしゅぼうさいそしきかにゆうそくしん ちょうぶく 外国人市民の自主防災組織加入促進（重複）	し ちいき 市、地域	
03-04 がいこくじんしみん しゅたい 外国人市民が主体 的に活動している	がいこくじん ちいき かつどう そくしん 外国人による地域ボランティア活動の促進 （日本語、文化、災害、子育てなど）	しえんだんたい 支援団体
	よか かつどう かんきょうせいび 余暇活動（イベント、スポーツ活動等）に参加しや すい環境整備	しえんだんたい ちいき 支援団体、地域
	ちいきかつどう く しょうぼうだんなど さんか 地域活動（区、コミュニティ、消防団等）への参加 の支援	し ちいき 市、地域
03-05 たぶんかきょうせい すいしん 多文化共生を推進 する人材が育って いる	つうやくしゅ そうだんいんとうじんざい ほくつ いくせい ちょうぶく 通訳者、相談員等人材の発掘と育成（重複）	し しえんだんたい 市、支援団体
	くちょう りんほちょう けんしゅう べんきょうかい 区長や隣保長への研修・勉強会	し 支援団体 市、支援団体
	しやくしょ がいこくじんしみん れんけい 市役所と外国人市民ネットワークとの連携	し しえんだんたい 市、支援団体
03-06 こようじぎょうしやどうし 雇用事業所同士が つながっている	しえんだんたい じぎょうしよ じぎょうしよ じぎょうしよ れんけい 支援団体と事業所、事業所と事業所の連携	きぎょう しえん 企業、支援 団体

第5章 プランの推進に向けて

1 多文化共生推進主体の役割

主 体	役 割
とよおかし 豊岡市	市民に一番身近な基礎自治体として、外国人支援団体とともに、外国人市民及び日本人市民のニーズや顕在化しつつある地域の課題などの把握に努め、必要な支援を行うなど、多文化共生を推進する役割を果たしていきます。
がいこくじんしえんだんたい 外国人支援団体	外国人の生活支援だけでなく、多文化共生の中核的な組織として、日本語教室や多文化理解推進のためのイベントや文化紹介等を実施しています。今後も外国人市民のニーズを把握し、団体または個人として蓄積した知見や語学力等を活かした活動を行うことが期待されます。
ちいき 地域 (コミュニティ、 じゅうみん 住民)	「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」との多文化共生の本旨を理解し、お互いに理解をしていく努力が望まれます。
がっこう 学校 (小・中・義務 しょう ちゅう きむ 教育学校、高等 きょういくがっこう こうとう 学校)	児童生徒が、言語や文化が異なる人々と互いに尊重し合い、主体的に協働できるよう、コミュニケーション能力を育成することが求められます。また、異文化理解を深め、多様性を受け入れる力を育てるとともに、豊かな国際感覚を身に付けるため、国際交流・国際理解教育の充実を図ります。
だいがく 大学	学生が外国人市民と交流する機会を持つとともに、広く優秀な外国人留学生を受け入れ、学業や地域社会への参加を支援することが望まれます。また、関係機関・団体と連携し、留学生が卒業後もその能力を活かして本市で活躍できるように、就職や起業を支援することが期待されます。
きぎょう 企業	外国人の雇用に際して、労働関係法令等を遵守し、適正な労働条件の確保、安全衛生の確保、保険の適用など必要な措置を講じる必要があります。また、雇用外国人及びその家族に対する日本語学習の支援に努めることが求められます。さらに、地域との交流など生活にかかる支援も望まれます。
いりょうきかん 医療機関	医療機関は、外国人市民が安心して医療サービスを受けられるように、多言語での対応や、文化・生活習慣等のちがいに配慮を行い、情報提供に努めていくことが期待されます。

2 関係機関等との連携・協働

関係機関やNPO法人等支援団体と連携し、協働して事業を進めます。

また、本プラン推進のため、「多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会」において市民の意見を聴く機会を持ちます。

3 市役所内での横断的な取組み

庁内の情報を共有し、連携して本プランを推進するため、「多様性推進本部多文化共生推進部会」において、進捗状況の把握と事業推進を図ります。

★TIA★
★豊岡市多文化交流サロン★
生活オリエンテーション&
Mini Christmas Party
2025年12月13日(土) 1:30pm～



Aity 4F ★WACCU TOYOOKA★にて



しりょうへん 資料編

しりょう
資料1 ざいりゅうしかくいちらんひょう
在留資格一覧表

しりょう
資料2 だい じ とよおかしたぶんかきょうせいすいしん さくてい けいか
第2次豊岡市多文化共生推進プラン策定の経過

しりょう
資料3 とよおかしたようせいすいしん たいさくけんとういんかい
豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会

こうせいいんめいぼ
構成員名簿

しりょう
資料4 とよおかしたようせいすいしんほんぶ たぶんかきょうせいすいしんぶかい ちょうないいん
豊岡市多様性推進本部 多文化共生推進部会 庁内委員

めいぼ
名簿

しりょう
資料5 たぶんかきょうせい かん ちょうさ こうべだいがく きょうどう
多文化共生に関するアンケート調査（神戸大学との共同

ちょうさ
調査）

在留資格一覧表

就労が認められる在留資格（活動制限あり）

在留資格	該当例
外交	外国政府の大使、公使等及びその家族
公用	外国政府等の公務に従事する者及びその家族
教授	大学教授等
芸術	作曲家、画家、作家等
宗教	外国の宗教団体から派遣される宣教師等
報道	外国の報道機関の記者、カメラマン等
高度専門職	ポイント制による高度人材
経営・管理	企業等の経営者、管理者等
法律・会計業務	弁護士、公認会計士等
医療	医師、歯科医師、看護師等
研究	政府関係機関や企業等の研究者等
教育	高等学校、中学校等の語学教師等
技術・人文知識・国際業務	機械工学等の技術者等、通訳、デザイナー、語学講師等
企業内転勤	外国の事務所からの転勤者
介護	介護福祉士
興行	俳優、歌手、プロスポーツ選手等
技能	外国料理の調理師、スポーツ指導者等
特定技能（注1）	特定産業分野（注2）の各業務従事者
技能実習	技能実習生

（注1）平成31年4月1日から

（注2）介護、ビルクリーニング、素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関係産業、建設、造船・船用工業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食品製造業、外食業（平成30年12月25日閣議決定）

身分・地位に基づく在留資格（活動制限なし）

在留資格	該当例
永住者	永住許可を得た者
日本人の配偶者等	日本人の配偶者・実子・特別養子
永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者、我が国で出生し引き続き在留している実子
定住者	日系3世、外国人配偶者の連れ子等

就労の可否は指定される活動によるもの

在留資格	該当例
特定活動	外交官等の家事使用人、ワーキングホリデー等

就労が認められない在留資格（※）

在留資格	該当例
文化活動	日本文化の研究者等
短期滞在	観光客、会議参加者等
留学	大学、専門学校、日本語学校等の学生
研修	研修生
家族滞在	就労資格等で在留する外国人の配偶者、子

※資格外活動許可を受けた場合は、一定の範囲内で就労が認められる。

資料2

第2次豊岡市多文化共生推進プラン策定の経過

年月日	内 容
2025年4月～5月	多文化共生に関する事業所アンケート調査（神戸大学との共同研究）
5月～6月	多文化共生に関する外国人・日本人市民アンケート調査（神戸大学との共同研究）
6月17日	<u>多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会（第1回）</u> 多文化共生推進プランの進行管理について協議・意見交換、アドバイザー情報提供
8月7日	<u>多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会（第3回）</u> <u>第1回多文化共生推進分科会</u> 多文化共生推進のための取組みについて意見交換（ワークショップ）、アドバイザー情報提供
8月28～30日	外国人雇用事業所へのインタビュー調査（神戸大学）
9月19日	<u>多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会（第4回）</u> <u>第2回多文化共生推進分科会</u> 多文化共生推進のための具体的事業について意見交換（ワークショップ）、アドバイザー情報提供
11月7日	<u>多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会（第6回）</u> 多文化共生推進の戦略体系図について意見交換
11月28日 ～12月11日	パブリックコメント
2026年3月	策定

資料3

豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会

【委員】

(順不同、敬称略)

氏名	所属等	分科会
井垣 真紀	地域関係者	ジェンダーギャップ対策
今井 秀司	起業支援者	ジェンダーギャップ対策
株本 治夫	教育関係者	多文化共生推進
岸田 尚子	多文化共生関係者	多文化共生推進
木谷 妙子	企業関係者	多文化共生推進
久木田 里奈	多文化共生関係者	多文化共生推進
倉田 晴美	教育関係者	ジェンダーギャップ対策
佐藤 春華	地域関係者	ジェンダーギャップ対策
委員長 高橋 正透	人権教育関係者	ジェンダーギャップ対策
副委員長 瀧下 真理子	人権・男女共同参画関係者	ジェンダーギャップ対策
坪口 幸弘	企業関係者	ジェンダーギャップ対策
中江 裕美	観光団体	多文化共生推進
西村 勲	地域関係者	ジェンダーギャップ対策
三宅 清子	外国人市民	多文化共生推進
姚 瑶	学識経験者	多文化共生推進

【アドバイザー】

(敬称略)

豊岡市多様性推進アドバイザー・豊岡市多文化共生推進会議アドバイザー	
田村 太郎	(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事

豊岡市ジェンダー平等推進アドバイザー	
大崎 麻子	NPO 法人 Gender Action Platform 理事

【顧問】

(敬称略)

豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議顧問	
目黒 依子	上智大学名誉教授、NPO 法人 Gender Action Platform 理事長

資料4

豊岡市多様性推進本部 多文化共生推進部会

【庁内委員】

(敬称略)

氏名	所 属	
袖長 春花	危機管理部	危機管理課
山本 慎二	総務部	総務課
得田 雅人	総務部	人事課
高田久美子	くらし創造部	地域づくり課
谷垣 卓宏	市民部	窓口サービス課
植村 環	健康福祉部	社会福祉課
木内 純子	健康福祉部	高年介護課
山田 晃子	こども未来部	こども未来課
中村くに子	こども未来部	こども支援課
小操 征司	コウノトリ共生部	環境経済課
羽尻 エミ	但東振興局	地域振興課
岩崎 隆行	教育委員会事務局	学校教育課
三輪 純子	教育委員会事務局	幼児育成課

2025年度 豊岡市・神戸大学 「多文化共生推進に関する共同研究」報告（概要）

調査の目的

市内に在住する外国人市民の生活の実態を立体的に把握し、その変化や今後の傾向を明らかにすることで、第二次多文化共生プランの策定の基礎となるヴィジョンを提供し、多文化共生を一つの軸とした「小さな世界都市 Local & Global City」・豊岡を実現すること。

2025年度調査について

2019年度調査と同様、外国人市民および市内各事業所へのアンケート・聞き取り調査を行い、比較を通じてその変化を明らかにすることに加え、新たに日本人市民へのアンケート調査も実施しその対比からも分析を試みた。さらに、2020-2021年度調査で得られた知見ともあわせ、地域社会における重要な構成員としての外国人市民の生活や就労の現状と課題を浮き彫りにすることを目指した。

意義：地域に生きる外国人市民に関する継続的な質的調査と大規模な量的調査を通じ包括的であるとともに時間的な広がりのある調査を実現。

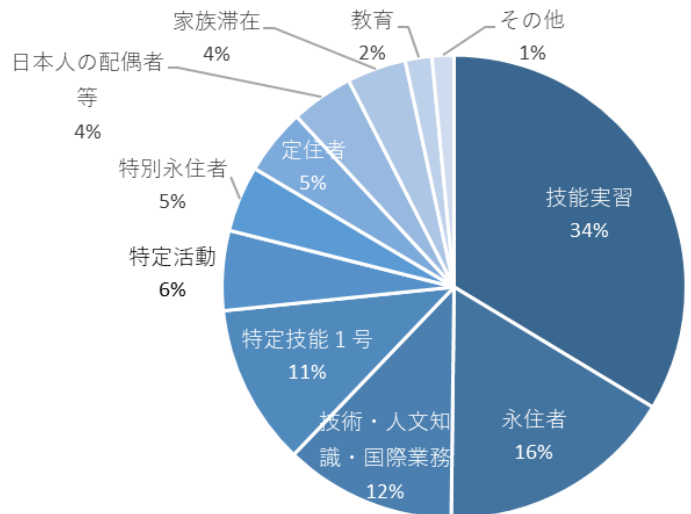
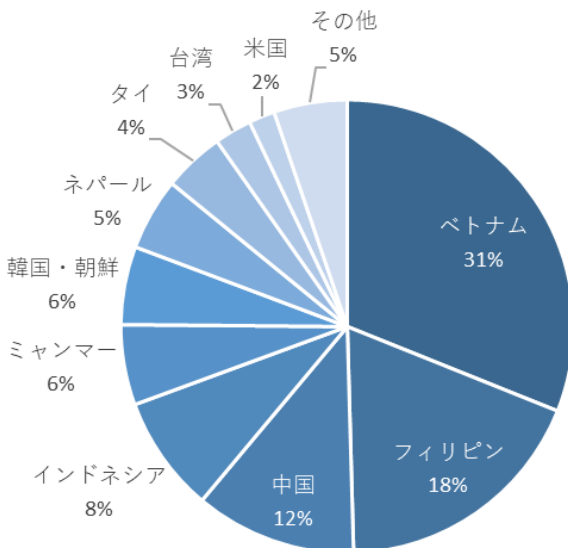
急速に変化しつつある豊岡の現状を詳細に把握するとともに地域社会の今後を予測し、よりよい共生社会を実現するための重要な知見が得られた。

豊岡市における外国人市民の概況

2021年11月末：838人 → 2025年2月末：1239人（人口の約1.6%）

豊岡市民の約60人に1人が外国籍

- ・コロナ禍での減少を経て、着実に増加傾向（日本全体の傾向と一致）。
- ・ベトナム、フィリピン、中国、インドネシアなど**29カ国**・地域からなる多様な出身地。また前回調査時には少数だったミャンマー出身者が顕著に増加するなど、**出身地の構成にも変化**が生まれつつある。
- ・在留資格別には「技能実習」とあわせ、「技術・人文知識・国際業務」「特定技能」（長期での就労・居住が可能）が**人数的にも増加**。
- ・18歳以上の外国人市民1176人にアンケート調査、およそ**4分の1にあたる280人**から回答を得た。



国籍・出身地および在留資格別外国籍住民割合
(2025年2月末時点・住民基本台帳データより)

外国人市民のくらしのようす

(「前回」は2019年度調査との比較)

地域や住民との関わり

会社の寮などに住んでいる方が4割、家族と同居が3割強、2割強が1人で居住(前回より増加)。

地域の自治会に加入しているのは2割にとどまり、未加入あるいは存在を知らない住民が7割強。また地域行事(祭り・日役など)への参加も4割程度(ともに前回とほとんど変化なし)。

また、市内の頼れる友人については、半数が同国人でいる、約3割が日本人でいると回答。一方、いないと答えた方も13%。

見えてきた課題

地域での人間関係は依然として限定されている面も。職場以外でも、地域で孤立を防ぐような関係づくりは外国人・日本人市民双方にとって有益。

仕事に慣れて落ち着いてくると、ここの暮らしがとても気に入りました。豊岡の景色はとても美しく、静かで空気も新鮮、そして人々はいつも親切です。

地元のお祭りや市場など地域で開催されるイベントについて知るの難しい。

花火もお祭りも見に行っているし、みこしを担いでみたい。地域でイベントがあることもあるけど休日の予定が合わずに参加はできていない。マンションの管理費は払っているけど、町内会は参加していないと思う。

同年齢ぐらいの日本人と友達になりたいんですけど、どこでできるかわかりません。

☆アンケート・聞き取りから

日常生活は順調です。でも、日本語がもっと上手だったら、もっと楽な生活が送れて、もっと多くのチャンスに恵まれるんじゃないかと、時々思うことがあります。

豊岡市では、日本語を勉強したい外国人がたくさんいると思います。個人で勉強できるような環境があればもっと勉強する人が増えるかと思っています。

小さくてもいいから地域に日本語学校が欲しい。勉強がしたくても、週に一度の教室さえなかなか行けない。日本語の勉強機会が少ないと周りの人たちも言っている。豊岡中心部までは車がないと遠いし、働いていると日程も合わない。

日本語について

読み書き・聞く話す能力ともに、およそ1割の方がネイティブと同程度、また約2割が仕事や生活に不自由ないレベルの能力を有している一方、半数強がまだ初歩的なレベル(前回より増加の可能性)。

また、日本語を学ぶ意欲はあるが、時間的・金銭的・地理的理由で学習ができていないという回答も目立つ。

見えてきた課題

生活・就労のためのみならず、日本滞在経験を活かすためにも日本語の習得機会を求める声。「学びたいのに学べない」という層への対応が模索されている。

子育てと教育

回答者の2割が日本に子どもがいると回答。日本人市民同様、18歳を超えると豊岡市外へ転出する傾向が強い。高校進学やそれ以降の進学についてはともに「まだ決めていない」や無回答が半数以上と、高い比率を示している。困り事についてはやはり進路や教育現場との意思疎通、また家族内での齟齬や母語母文化の継承について回答があった。

見えてきた課題

子どもの将来についてのヴィジョンを持つことに困難を抱えている現状が明らかに。

子どもにはこのまま日本で育てて欲しい。家では母語とたまに英語で話しかけている。これからも自然に日本語は覚えると思うから。いつかは母国に帰りたいと思うけど、子供が小学校や中学校に進むぐらいまでは日本で頑張りたい。

(非定型発達の子どもに対し)子ども園の先生からひどいことを言われた。現場の人に多様性について研修をしてほしい。

技・人・国による就労が増加していますが、子供だけではなく配偶者の呼び寄せも増えており、そこからさらに、出産、子育てという流れで家族を形成するようになってきている。(支援者)

豊岡で働く

ほとんどの外国人市民が働いている、あるいは過去に働いていたと回答（9割、前回とほぼ同じ）。技能実習生の割合はやや減少傾向の一方、正社員・契約社員等が増加（3割→4割）。また、サービス業（旅館・商店等）や建設業に加え、介護や事務職なども顕著に増加。豊岡・城崎地区が過半数だが、市内各地区で仕事に就いている。

見えてきた課題

期限付きではなく、中長期の生活を見据えた多様な就業形態。地域の産業だけではなく生活により密着した貴重な働き手かつ社会の一員として存在感を増している。

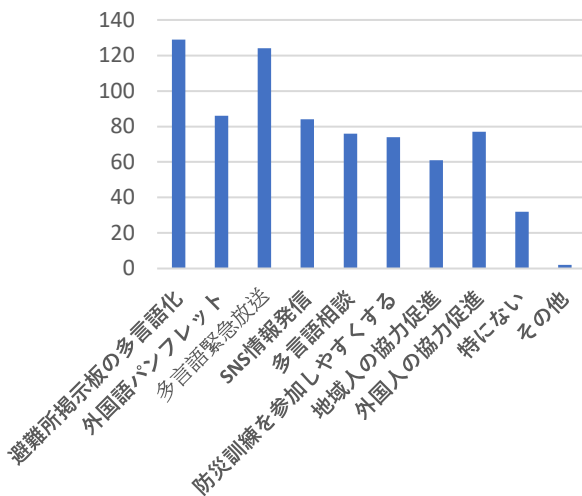
すごくいい会社。人も優しく、職場でヒジャブ（ムスリム女性のスカーフ）をつけても大丈夫です。

豊岡で技能実習生として働いている時に出会った日本人と結婚した。豊岡でいくつかアルバイトで働き、今は夫とお店を営んでいます。

安く働いてくれる人っていうわけではなく、大手のようにはいかないですけど、豊岡ではちょっといいとこだよ、ぐらいな待遇でないとなんかちょっと難しい。（事業主）

Aさんが（他の外国人従業員）全員の誕生日会をしている。お正月やなにかあるとパーティ。いろいろ相談にもものったりしてほんとうによくしてくれるから、誰も辞めないでいてくれる。（事業主）

地震や台風の準備のために豊岡市にしてほしいこと（多重回答）



防災に関して

約45%が備えをしている（日本人市民調査とほぼ同じ）一方で、2割の外国人住民が「どのような準備かわからない」と回答。防災訓練についても参加経験があるのはおよそ2割で「知らない」が5割。また避難場所についても半数以上が知らないなど、防災意識に関する差異が浮き彫りに。

見えてきた課題

方が一の事態に備え、互いに助け合えるような関係づくりと、多言語・多文化での情報・知識伝達が必要。

多文化共生への取り組みについて

現在実施されている「日本語教室」「外国人相談窓口」「豊岡市リビングガイド」「多文化交流サロン」について、認知は未だ限定的だが、ともに3割程度が「知らなかったが利用してみたい」と回答。

見えてきた課題

先進的な取り組みがなされているが、認知度はあと一步。ただ、潜在的需要は大きく、また調査による告知効果も期待できる。

日本語ネイティブの人ともっと話してみたいと思っていますが、外国人と接した経験のない人と話すのはなかなか難しいと感じています。たとえ外国語が少し話せたとしても、私に対してとても緊張して怖がっているように見えます。

豊岡に住む外国人のためのコミュニティやエリアはほとんどありません。ここでの生活はかなり孤立しており、母語を使える仕事の数も限られています。豊岡市が私のような多くの外国人のために、文化やこの場所の人々をつなげるためのアイデアや活動をもっと増やしてくれることを願っています。

生活上の問題など

「外国人だからという理由で嫌な思いをしたことがありますか」

- ・よくある、時々ある：88件（31.4%）
- ・あまりない、全くない：176件（63.2%）

場面としては職場が最も多いが、その他は日本語でのコミュニケーションに起因すると思われるケースがほとんど（買い物・病院など）。

日本人とのトラブル経験については「特にない」が8割。生活上のルールに関する問題（音・ゴミなど）について少数の回答があった。

一方、日本人住民調査でも74%がトラブルは特にないと回答。具体的なトラブルについても同様に日本語と生活ルールに関するものが大半。ただし、自由記述欄では具体的な根拠なく外国人市民を忌避するような記述もいくつか見られた。

見えてきた課題

深刻な問題はほとんど起きておらず、また丁寧な説明や意思疎通によって容易に解決できるケースが大半。ただし、まだ外国人市民との接点は限られていることも事実であり、不安や偏見を深めずに相互理解を進めてゆくための方策が求められる。

（相手の）言葉がわからず簡単な日常会話しかできない。何か伝えたいんだろうな～困っているんだろうな～というのが表情ではわかるが、何もしてあげられず相手も私も苦笑い。

プライベートで関わっている方も増えている。いろいろ文化の違いも多いため、小学生のうち、中学や高校のうちからお互いの文化について交流出来る場があればと思う。スポーツとか食文化からだとか関わりやすいかな？

数ある市町の中で、縁あって豊岡市に住んでくれている外国人の方たちが「豊岡市に来て、暮らして、良かった」と思っているか、子どもたちはどう感じているか、知る努力をしないと、辛い思いをしている人は、SOSもできず、ずっと困ったままなのかもしれない

自分自身が、職場にいる外国の方ともっと関わられる機会、時間があればよいと思う。お近づきになりたいのに、遠慮してしまう。

日本人市民調査から

日本国籍所持者3000人を無作為抽出しアンケートを送付、4割強から回答があった。

外国人の隣人については34%が、職場での外国人については25%がいると回答。こうした面から、その存在について認知が進んできていることは窺えるものの、外国人の友人知人については84%がいないと回答しており、日常生活や地域におけるつながりの構築がこれからの課題となる。また、多文化共生推進プランについてはおよそ8割が知らないと回答。

事業所調査から

市内に拠点を持つ事業所2679ヶ所にアンケートを送付、うち3分の1から回答があった。

外国人従業員の雇用があるのは豊岡・城崎地区を中心に84件。業種としては宿泊・飲食サービス業（23件）、製造業（18件）、建設業（16件）、医療福祉（8件）など。事業所あたりの雇用人数は7割が9人以下。また、出身については業種により異なるものの、全体として見た場合男女はほぼ同数。雇用については94%が満足と回答しており、ほぼ全数が今後も継続して雇用したいと回答。

地域社会の未来と活力を上げるために欠かせない担い手としての外国人住民の存在が浮き彫りとなった。共生のためにはまだ課題は多いが、豊岡市民全体にとってより生きやすい社会をつくりあげる試みは一步一步前進している。地域住民と行政・各団体・事業所で協力した取り組みが今後も求められる。



いのちをつなぐ
豊岡市
TOYOOKA

第2次豊岡市多文化共生推進プラン

2026年3月

豊岡市暮らし創造部

多様性推進・ジェンダーギャップ対策課

〒668-8666 豊岡市中央町2番4号

TEL : 0796-23-1111 (代表)

FAX : 0796-24-8114

URL : <https://www.city.toyooka.lg.jp>